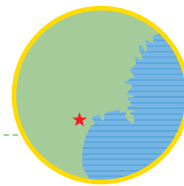
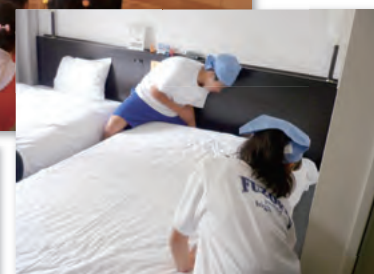


色とりどりの学びの情景

生き方に迫る体験学習



表紙の学校 宮城県 宮城教育大学附属中学校



1年生の3日間の職場体験は、幼稚園、ホテル、鉄道、新聞社、橋やダムの記事事務所などさまざま。2年生は2泊3日で山形を訪れ、民泊をしながら、農業、漁業、観光業、食産業などを体験し、地元の生活と文化を肌で感じる

全校発表会では、ポスターセッション、電子黒板を活用した発表、体験してきたことの実演など、班によってさまざまな工夫が見られた。聞く側は、発表から学んだ点や良かった点を「視聴カード」に書き、その班に渡す。発表会の準備は学年縦割りで行うため、学習の流れが生徒間で受け継がれている

宮城教育大学附属中学校では、昭和48年から「総合学習」として人々の生き方、考え方に触れる調査研究・体験活動を進めてきた。現在は「総合的な学習の時間」で、1年生は仙台市での職場体験、2年生は山形県での民泊と調査研究・体験活動、3年生は東京・神奈川での調査研究・体験活動を行う。生徒は学年が上がるにつれ活動範囲を広げながら、それぞれの地域で仕事を体験し、そこに住む人々がどんな思いで働

ているのか、喜びや苦勞などを聞き、生き方に迫る。関心が同じ生徒同士が学級横断で班を作り、事前に体験先について徹底的に調べ、講師への質問を考える。体験後は活動内容と研究結果をまとめ、全校発表会で報告する。どの生徒も「仕事にこだわりを持つことや、郷土のために貢献することの重要性を感じた」という。学校を飛び出した体験は生徒の考えを少しずつ揺さぶり、社会参画の実践力を育成する。

過去1年間の
特集テーマ

Back Number

2014

Vol.1 言語活動を通じて高める生徒の力——新教育課程の中間総括として

2013

Vol.4 社会を生きる力を育む——キャリア教育の視点で教育活動を捉え直す

Vol.3 1人で学べる生徒を育てる

Vol.2 生徒の心に火をつける

すべての記事をウェブサイトからPDFでダウンロードいただけます

<http://berd.benesse.jp>

または

ベネッセ 研究

で

検索

次号 Vol.3 は 2015年2月発行(予定)です